

9 September

- 1 [日] 第14回お店をつくろう!〜小さなまちづくりプロジェクト〜
◎PLAT アートスペース
- 4 [水] 古典遊学〜シェイクスピア講座〜『ウィルを待ちながら』〜リア王〜
◎PLAT アートスペース
- 6 [金]—8 [日] 『最貧前線「宮崎駿の雑想ノート」より』◎PLAT 主ホール
- 9 [月]—11 [水] 豊橋演劇鑑賞会 第274回例会 劇団民藝
『野の花ものがたり—徳永進「野の花通信」より—』◎PLAT 主ホール
- 15 [日] 『TNE ODORI』鈴木馨バレエスタジオ公演 Vol.40◎PLAT 主ホール
- 15 [日] ダンス保育園!!◎PLAT アートスペース
- 18 [水] Trio Katze Recital◎PLAT アートスペース
- 19 [木] 大学・短期大学・専門学校 進学ガイダンス
◎PLAT アートスペース
- 21 [土] 尾関佳奈×秀平雄二 ピアノジョイントコンサート
◎PLAT アートスペース
- 22 [日] 秋の日の午後 ドイツリートの調べによせて
〜メゾソプラノ・バリトン・ピアノによるコンサート〜
◎PLAT アートスペース
- 23 [月・祝] 『人形の家 Part2』◎PLAT 主ホール
- 23 [月・祝] 笑いの学校 第11回例会 桂三四郎独演会
◎PLAT アートスペース
- 28 [土]—29 [日] 庭劇団ベニノ
『笑顔の砦』RE-CREATION
◎PLAT アートスペース
- 29 [日] L&G Dance Studio ダンス発表会
◎PLAT 主ホール

10 October

- 3 [木] レ・タンブル&ハルモニア・レニス 古楽器コンサート
◎PLAT アートスペース
- 5 [土] 人形浄瑠璃 文楽◎PLAT 主ホール
- 6 [日] 劇団四季ファミリーミュージカル
『カモメに飛ぶことを教えた猫』
◎PLAT 主ホール
- 6 [日] Tutti Autumn Concert◎PLAT アートスペース
- 12 [土] ブレグミューラーコンクール豊橋地区予選
◎PLAT アートスペース
- 13 [日] ビティナ・ピアノステップ 10月13日地区◎PLAT アートスペース
- 13 [日] 邦楽大会「日本舞踊の部」◎PLAT 主ホール
- 14 [月・祝] Violin Songs Vol.2◎PLAT 主ホール
- 14 [月・祝] RIKA FIRST CONCERT◎PLAT アートスペース
- 15 [火] 桂文我独演会◎PLAT アートスペース
- 23 [水] 金剛山歌劇団 豊橋公演◎PLAT 主ホール
- 26 [土] 豊橋おやこ劇場協議会 高学年部例会「未来」
◎PLAT 主ホール



表紙/永作博美「人形の家 Part2」

撮影:戎康友

裏表紙/タニノクロウ「笑顔の砦」RE-CREATION

企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団

編集・デザイン/味岡伸太郎+有限会社STAFF

令和1年8月発行 39号[隔月発行]



TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2019年9月—10月

vol. 39



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

PLAT NEWS

CONTENTS

表紙
永作博美「人形の家 Part2」
2

INTERVIEW:1
人形の家 Part2
何と人にやさしい戯曲を
書いてくれたのだろう。
永作博美
4

INTERVIEW:2
最貧前線
命をつないだ男たちの物語です。
井上 桂
6

INTERVIEW:3
笑顔の砦 RE-CREATION
セットの中に住むように作り、
セットの中で寝て。
タニノクロウ
8

INTERVIEW:4
レ・タンブル&ハルモニア・レニス
古楽器コンサート
喜びや悲しみがわかりやすく
表現された音楽です。
水内謙一
10

INTERVIEW:5
人形浄瑠璃 文楽
『生写朝顔話』は、一目ぼれした
男女のすれ違いの物語です。
吉田勘彌
12

INFORMATION
PLAT主催公演情報
14

LOITER
バラコの寄り道ぶらぶら
桑原裕子
「キャラメル」の味」
15

SUPPORT
TICKET CENTER

裏表紙
タニノクロウ「笑顔の砦」RE-CREATION
PLAT CALENDAR

永作博美[ながさく・ひろみ]／1970年生まれ。茨城県出身。1989年のオーディションをきっかけに歌手デビュー。94年のテレビドラマ『陽のあたる場所』で本格的に女優として活動を始める。以降、映画、ドラマ、舞台と幅広く活躍。近年の出演作は、ドラマ『沈黙法廷』(2017)、『みかづき』(2019)、映画『ソロモンの偽証』(2015)、『夫婦フーフー日記』(2015)、『さいはてにて〜やさしい香りと待ちながら〜』(2015)、舞台『プルトック PLUTO』(2015)、『頭痛肩こり樋口一葉』(2016)など。映画『八日目の蟬』(2011)では、日本アカデミー賞受賞。本作『人形の家 Part2』は3年振りの舞台出演となる。

ギャップを感じました。那須さん演じるエミーにとってノラはお母さんだけ、15年という会っていない時間がある。本当はあなたのことを何も知らないっていう、何とも言い難い距離感があるなと思って本読みをしていました。

—— 永作さんは一人だけずっと出ずっぱりですね。

永作—— 本読みをただで酸欠状態だったので、酸素ボンベを用意しておいてもらおうかなと(笑)。栗山さんは「水飲みたくなったらどうするんだろうね」と言いながらも、「まったく下がることないから」「ずっと出ずっぱりだから」と。優しいんだか、プレッシャーをかけているのかわからないような言葉を残して帰っていかれましたね。それこそやるしかないな、と。ただただ面白かった、また観たいねと思ってもらえるように頑張るだけですね。

—— ありがとうございます。期待しております。

品かなと思います。

—— 演出の栗山さんと創られる楽しさとは。

永作—— 栗山さんは「すべては本に書いてある」とよくおっしゃるのですが、残念ながら栗山さんほど掘り下げて本を読める能力がなく。いつもこの本について、どういうことを思って、どんなダメ出しをされるのだろうと、知らないことを毎回教えていただくイメージです。新しい事を発見すると、キラキラする、そういうタイミングを楽しみにしています。

—— 娘役的那須さんとは初めての共演ですか。

永作—— 先日、本読みで一緒にしたのですが、本当に若いなと(笑)。でもそれがまた面白くて。飄々とどンドン進む感じとか、若者としての把握の仕方をしながらどンドン返してくるセリフとかが、すごくジェネレーション



ヘアメイク:光倉カオル(dynamic)
スタイリスト:鈴木えりこ

—— おもしろいと思われたポイントをお聞かせください。

永作—— それぞれが好き勝手なことって、「勝手だな」というものもありながら、「とりやそうだな」もあった。これを若い男性が書いたのだ、それもすごいなと思ひ、あれだけの古典をこれだけ現代に引っ張ってきているのもすごい。完全に一緒に車でドライブできる感じで、たぶん見てくださる方も、考えるつもりがなくても、自分のことと考えてリンクしそうな感じがします。

—— 舞台だからこそできることはありますか。

永作—— 舞台だからこそと言われれば、繰り返し同じことをするというので、気づかさされ、感じられ、何かが重なっていく感じが醍醐味です。その重ねていくという楽しさが舞台はいいと思います。ちょっと修行みたいなのところもあるのですが。

—— 成長した娘と出会うシーンはドキドキしますね。

永作—— やはりノラも怖がっていますね。それは当たり前前だなと思う。でも15年後に子どもと一対一で会うシーンはすごい見応えがあると思います。

—— 今回楽しみにしていることはありますか。

永作—— まだ本格的な稽古に入る前なので、具体的にはお話できないのですが、ノラが自分の思いをすべて言い放った時にどんな気分になるのだろうと今から楽しみにしています。結局みんなを納得させているわけではないけれども、この人は自分の道を生きているのだなと思います。

—— どんな方に観ていただきたいと思われませんか。

永作—— 世代が4世代入っているお話なので、どの世代の方に観ていただいてもお怒りになるところや、納得するところなど色々感じられる作品ですので、老若男女問わず、観ていただけたらと思います。演劇をあまり観られたことがない方でも、この話はわからない部分が多いとは思いますが、観劇デビューするのにもいい作

—— 『人形の家』は、どのような印象をお持ちになりましたか。

永作—— ノラはかわいらしくて奔放な女性だなと思いました。今の時代ならば考えられるけれど想像すると、100年前には衝撃的な作品だったと、一歩引いていました。私の中では古典の領域で、翻訳であることの距離感もあって、客観的に見ていました。

—— 140年後の続きについてどう感じていますか。

永作—— やはり名作であればこそ、皆さんもその物語の続きは気になるものですね。置いていかれた家族のことも心配したりして。だから何と人にやさしい戯曲を書いてくれたのだらうと思いました。それと同時に「いいんだ、書いて」とビックリしましたね。

—— ノラの選んだ生き方をどう感じていますか。

永作—— 難しい問題ですよ。でも、彼女は人として、として家族もそれぞれひとりひとりと考えたときに、その考え方にいたったのではないかなと想像します。私が出て行くと家族がどうなるのかも、もちろん考えた結果だろうなと思いますね。

例え「不幸なことが起きた」としても、その先どの道を選ぶのかはその人次第です。そういったことがあって強くなったり、違う考えや他の人の気持ちがわかるようになったり。考えられる力はそれによって養える。それはその人が自分の人生をリメイクできるチャンスとも思えば、また別の話になりますね。誰かのせいにならず、潰れない自分を作っていくことは、この先すごく大事なことだなと思っています。

—— 『人形の家 Part2』のお話を聞いた時どう思われましたか。

永作—— 「あ、帰ってくるんだ」。一体ノラは何を言いに来るんだろう。どんな顔をして帰ってくるんだろうと、喜んで読んでしまいました。あまりにもおもしろかったので、「これ、私がかやっついんですか。」と。

彼女は何から解放されたかったのか、
そして今、何から自由になりたいのか。
何と人にやさしい戯曲を書いてくれたのだらう。
出演 永作博美

9月23日[月・祝]13:00開演
作=ルーカス・ナス
翻訳=常田景子
演出=栗山民也
出演=永作博美、山崎一、那須凜、梅沢昌代
会場=PLAT主ホール

人形の家 Part2

あれから15年、すべてを置き去りにして
家を出ていったノラが、帰ってきた。

最貧前線

宮崎駿のオリジナル作品

国内初の舞台化

9月6日[金]18:30開演

7日[土]13:00開演／18:00開演

8日[日]13:00開演

原作＝宮崎駿「宮崎駿の雑想ノート」より

脚本＝井上桂

演出＝一色隆司

出演＝内野聖陽、風間俊介、溝端淳平／ベンガルほか

会場＝PLAT主ホール

INTERVIEW:2

矢作——なぜ今『最貧前線』を舞台化しようと思ったのですか。

井上——原作に、とても感動したのは確かです。第二次世界大戦下、多くの国民が戦争に巻き込まれ、市井の人々の命が多く失われました。宮崎駿の雑想ノートの『最貧前線』では、徴用された漁船の乗組員が生きのびようとするのひたむきな姿勢は、数ページの物語ながら心を強く揺さぶるもので、平和そのものをもう一度考えさせる大きな力がありました。最前線も銃後もない戦争になっていた当時でも、「たくましく生きる姿が描かれている」と思います。

矢作——宮崎駿さんの作品の魅力はどのような所にあると考えていますか。

井上——もちろん物語の運びも素晴らしいけど、特にシリアスな物語やシーンであっても、登場人物が本来持っている強さやユーモアで、たくましく生きたり、立ち向かうところが印象的に描かれ、そのあたりに宮崎さんの人間への期待、愛を感じます。それがあって、どの登場人物たちも魅力的に見えているところです。

矢作——舞台化するにあたって、どのような所を意識されましたか。

井上——登場人物は、とにかく宮崎さんの人への期待、愛を裏切らないこと。誰もが誠実で、そしてたくましい人でなくてはいけない。そして、ある明るさ、それはユーモアだったり、希望だったりを内在させなくてはと思っていました。

原作のストーリーは、いわばクライマックスだけが描かれたものなので、長尺にした舞台版でも、とうなる構成であることも大事ですし、なによりも、「平和が何より」という最後のセリフが、しっかり伝わらないといけない。戦後の視点であの戦争を振り返って書くのではなく、当時の当事者が見聞きしたであろう体験の中で起きる心の動きを見つめ続けたつもりです。

軍人さんと漁師さんのでこぼこコンビのある意味珍道中の物語なので、エピソードがリアルであれば、あるところまでいけるかなと思いました。

矢作——繰り返されるエピソードは事実なのでしょうか。

井上——人は危機に立ち向かう姿勢とその責任の取り方で、その人柄が出るので、なるべくエピソードが人を語るように、面白そうなエピソードを歴史の方から拾ってきました。実際にクジラを潜水艦と見間違えたり、動かない星をB29の大編隊が飛んできていると勘違いしたりした。漁師さんは「そんなことよくあるさ」ですが、軍人さんたちは恥じて、なかなか非を認めなかったと。そんな証言が結構残っていたのです。どうやらこういう軍人さんやこういう漁師さんたちがあちこちにいたらしい。そんなエピソードを吉祥丸という船の中で集めたらどうなるのだろうというイメージで考えました。

矢作——内野さんを漁船の船長に、風間さんを海軍の艦長にキャスティングしたのはどのような点を期待してのことでしょうか。

井上——内野さんの豪快さとたくましさこそ、この船長をより船長らしくしてくれる。宮崎さんが描く、たくましさやユーモアがこの方にある、と思っていました。

生粋の軍人を演じる風間さんは、その実直さと誠実さがピッタリです。艇長はやがて漁師たちの行動に一目置いて、やがて自分なりの判断をする理性的な一面を見せていきますが、しばらくはその葛藤で苦しむ人物です。その役は、やっぱり風間さんだと思いました。

矢作——芸術監督・脚本家というアーティストとしての考えと、プロデューサー・劇場制作者としての考えの間で苦労したところやジレンマを感じたところはどのようなところでしょうか。

井上——時々、スタッフ寄りの気持ちになってしまう時があって、舞台装置などのカット・変更のジャッジが思っ

井上桂 [いのうえ・かつら] / 2017年、水戸芸術館ACM劇場芸術監督に就任。大学生時代より夢の遊眠社、地人会、俳優座劇場舞台美術部などで様々な形で演劇に関わる。大学卒業後、舞台監督会社、演劇制作会社などを経て、新国立劇場開場

時から演劇部門の制作職、演劇研究所など歴任。日本芸術文化振興会プログラム・オフィサーなどを経て現在に至る。本年上演される『最貧前線』(宮崎駿の雑想ノートより)では、脚本を担当した。舞台に関するイラストも得意。

たより辛い時期がありました。けど、「作家でプロデューサーが言うなら、しょうがないね」と、一方で説得しやすい。今や、使い分けできるようになったので、楽しんでいる部分もあります。

一度ボツになった第二幕案があるのですが、それは予算のことを考えてしまって書いた本です。ダイナミックさがなくなったと不評で、撤回しました。演出家に、そのあたり気にしないで書いてと言われても、気になって筆が進まなかった。最終的には今の形になりました。

矢作——水戸という地域の公共劇場からこれだけの大きな企画を立ち上げていくことへの意気込みをお聞かせ下さい。また、ご一緒する各地の劇場に期待することなどあれば。

井上——「公共劇場というプラットフォームを活かす企画」とは、と考えて始めた企画です。一般の商業的な側面からだと、宮崎駿作品の舞台化は、長編アニメからのチャレンジになったかもしれない(きつとそういうアクセスでは企画は通らなかったでしょう)。逆に公共劇場だから、「最貧前線」という知る人ぞ知る宮崎小品の企画が通った側面もあります。その結果、全国各地で、僕らが愛してやまない演劇に、今までご縁のなかった方々に関心を持っていただけたら、何よりの喜びですし、その点で成果として上がったなら、なお嬉しい。

文化庁から助成金を得るために、公共劇場の意義を語るなくてはなりません。一方で、公共劇場も経済性も考えねばならない時代への一つの答えにもなったら良いと思います。



宮崎駿が太平洋戦争の歴史秘話を基に、平和への願いを込めて描いた『最貧前線』が今、新たな時代に立ち上がる。脚本聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場ロケット芸術文化プロデューサー

命をつないだ男たちの物語です。井上桂

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

日本海に面した小さな漁港町。漁師たちが住むアパートに、ある家族が引っ越ししてくる。セットの中に住むように作り、セットの中で寝て。タニノクロウ

作・演出

INTERVIEW:3

矢作—— オープンの頃からいつかはお呼びしたいと思いつつ、ようやく実現でき、うれしいです。

タニノ—— 僕も、うれしいです。

矢作—— 今回の『笑顔の砦』は、タニノさんの作品作りの流れからすると、少し印象が異なるように思いますが。

タニノ—— 初めて物語を書いた作品で、2007年に初演したのですが、その前は会話ではなく、特に台本もなく稽古場で思いついた言葉をそのまま俳優に覚えてもらっていました。2008年にイブセンの『野鴨』を演出することになり、その予行練習のつもりで物語らしきものを初めて書いたのが『笑顔の砦』の初演です。

矢作—— その初演の時と今回のリクリエーションでは特に題材は変わっていないですね。

タニノ—— 出身地である富山は僕がオリジナルで持っている記憶なので、海のそばの話をなんとなく考えました。もう一つは、2006年に作った『ダークマスター』という作品との対比で、それが陰だとすると、こっちが陽というか。同じ座組で質の違う作品を裏表できるようにすれば俳優のためにもなるという思いがありました。

矢作—— 「RE-CREATION」というかたちで作り直すにあたって、何が変わったのでしょうか。

タニノ—— 大きいのはリクリエーションのために約3週間、滞在制作を行った城崎国際アートセンターの場所の魅力。山も近く、海も日本海で取れる魚も富山に似ている。城崎に滞在して稽古をしているから、『笑顔の砦』のリアリティがより分厚くなるだろうと思った。今回のノ

出演者は関西圏の俳優なので、言葉という面でもリアリティをより分厚く作り直すことができます。演劇を構成する条件が合致しましたね。

矢作—— 二つの隣り合うアパートの部屋を舞台に、一方には漁師たちの話があり、もう一方には家族の話と並列させていくという、このアイデアは、どこからきたのですか。

タニノ—— お互いに違う、時間の過ごし方が展開されるのですが、全く関係のない登場人物を関係のない俳優がやっていることが、自分に関係している可能性は十分にあるわけで。それは壁を1枚隔てて全く違う時間を過ごしてようが、向こうで起こっている、どういうセリフに影響を受けて自分がそこにいるのかということなるべく多重に理解してもらおう。それは別に俳優とか物語に

かかわらず、演劇というのはすべてとうやうや繋がりがあって、それを体感するシンプルなやり方なのです。

矢作—— 食事のシーンを始め、本当に匂いが漂ってくるようなこだわりが、表現されていますね。

タニノ—— セットの中に住むように作り、セットの中で寝て、手あかをつけて、この空間に自分の匂いを染み込ませ、この繋がりを強くしていった結果だと思うのです。色んな人と物と繋がりを強く作って、そこから発せられるものはたくさんあります。

僕が自宅マンションを改造した劇場スペースの「はこぶね」で作品を作っていた頃は、悶々と一人で寂しく暮らしていたときの性の衝動みたいな、そういうイカ臭さとか精子臭さの中で吐き出されるものが匂いとなった。

タニノクロウ / 1976年富山県出身。庭劇団ペニノの主宰、座付き劇作・演出家。セゾン文化財団シニアフェロー(2015年まで)。2000年医学部在学中に庭劇団ペニノを旗揚げ。以降全作品の脚本・演出を手掛ける。ヨーロッパを中心に、国内外の主要な演劇祭に多数招聘。劇団公演以外では、2011年1月には東京芸術劇場主催公演で『チェホフ?!』の作・演出を担当。狂気と紙一重な美しい精神世界を表現し、好評を得る。2015年3月ドイツにて新作『水の檻』を発表。2016年『地獄谷温泉 無明ノ宿』にて第60回岸田國士戯曲賞受賞。2016年北日本新聞芸術選奨受賞、第71回文化庁芸術祭優秀賞受賞。2017年ドイツ人美術家カスパー・ビヒナーとMプロジェクトを立ち上げ、国内外で作品を発表。2019年第36回とやま賞文化・芸術部門受賞。

PLAT小劇場シリーズ
庭劇団ペニノ

笑顔の砦 RE-CREATION

タニノクロウの物語作品の原点が、
今、新たなキャストとともに生まれ変わる。

9月28日[土]・29日[日]14:30開演

作・演出=タニノクロウ

出演=井上和也、FOペレイラ宏一郎、緒方晋、坂井初音、

たなへ勝也、野村真人、百元夏繪

会場=PLATアートスペース

のだと思います。とことんまであの空間の中で見た夢を具現化していく作業に没頭していたわけですが、全く違うように見えても衝動は変わっておらず、今は住む場所がないから、じゃあセットに住もう、そんな感覚なのだと思います。

矢作—— タニノさんの脳内の再現的な作品から、より広い世界を表現するような作風になってこられているように見えるのですが。

タニノ—— たぶん一つ大きな理由は、俳優というもののとらえ方が随分変わったと思うのです。昔は置物というか人形的な扱いだっただけだと思うのです。今は一方通行ではなく、彼らの意識の広がりや作品の広がりをもたらす結果になっていると思います。

矢作—— この先に、どのような方向に進んでいきたいですか。

タニノ—— この先、それがやはり難しい。僕も43歳になりました、このような活動もあと10年くらいと思ったりする。来年で劇団としては20年目ですが、ずっと面白いものや、人が驚くような作品、感動するものを作りたいと思っていたのですが、その優先度が下がった。どう影響があるのか、どう変えられるのか、自分がどう変わるのかという、人に何かアプローチすることの方が重要になってきました。海外公演も、そこに何かがあるのか、どういった人たちがどう思うか、どう生きているのかを知ったり、繋がったりすることの方が今後はたぶん重要になってくる。そういった意味で、演劇に限らないです。

矢作—— もっと大きな影響力を与えるものをですか。

タニノ—— 大きいかどうかはわからないけど、2019年3月に富山のオーバードホールで創った『ダークマスター』は、フル市民参加型でした。主演の人はその辺のコーヒー屋のおじさん。でも、できた作品は、どこで見せても遜色ない水準だと思った。何かよくわからない同士が集まって、よくわからないものをやるということは、たぶんあまりないことだと思うのです。でも何かよくわからない不確定のものや出会わないと、世界は広がらない。今みんなが世界と繋がっているように思うけれど、それは完全に幻想で、コミュニケーションが本当に必要なのはコミュニケーションが取れない人であって、その人たちの受け皿がない。演劇がコミュニケーションを知ることに

なるのではなく、演劇自体がコミュニケーションを起こす可能性があると思うのです。この先、コミュニケーションを取れない人は山ほど出てくる。でも、その人たちどうやって生きていくのかは、とても重要だと思うのです。そういうことを同時にやっていく、でも、それはもう従来の演劇ではないと思います。

演劇の一番の強みはしょぼいことだと思います。影響なんてないし基本的には思われるからすぐで。だから、いろんなことを可能にするのです。よくわからない人の出会いを作ることができ、文化の衝突を起こすことができると思っています。

矢作—— 豊橋での上演と、タニノさんの今後を期待しています。

レ・タンブル&ハルモニア・レニス 古楽器コンサート

甘美なるイタリア・バロック

～バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディへの道～

10月3日[木]19:00開演

出演=レ・タンブル[川久保洋子(バロック・ヴァイオリン)、ミリアム・リニョル(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、

ジュリアン・ヴォルフス(チェンバロ&オルガン)]、

ハルモニア・レニス[水内謙一(リコーダー)、村上暁美(チェンバロ&オルガン)]

会場=PLAT アートスペース



本に本拠地を移しました。レ・タンブルはフランスを中心にヨーロッパ各地で演奏活動をしています。2011年からは毎年この5人で、ヨーロッパか日本で演奏ツアーをしています。フランスは夏に避暑地で音楽祭が多く、美しい自然の中で教会やお城で演奏します。昨年は僕たちがヨーロッパに行ったので、今年は日本ツアーとなります。

中島——「シェイクスピアの音楽」と「初期イタリア・バロック」二つのプログラムがありました。豊橋は初期イタリア・バロックの方を選びましたが、今回演奏するプログラムについて聴きどころなどあれば。

水内—— 初期イタリア・バロックの面白いところは、1曲の長さはとても短いのですが、その中で表情がどんどん変わって展開が早いところです。短いソナタ1曲の中に、ちょっとした芝居を見ているような物語性があるのに気が付いていただけたと思います。曲目に歌詞がついてないので、ストーリーはお客様に想像しながらお聴きいただきたいです。

このプログラムでリリースした僕らのCDのタイトルにもなっているのが「甘美なる旋律」という曲なのですが、すごくいいメロディーなんです。この曲だけは華やかなソプラノ・リコーダーではなく、甘い響きのテナー・リコーダーで演奏します、イタリア音楽の激しい情熱と、甘美な甘さをあわせ持つのが、このプログラムの素敵なところなんです。

中島—— では、もう一度最後に豊橋のお客様にメッセージを。

水内—— 僕らのアンサンブルの特徴は多彩な楽器編成なのですが、鍵盤奏者が2人もいてオルガンと2台のチェンバロを弾き分けるというのは、バロックの演奏会でもとても珍しいです。曲によって楽器編成も変えていくので、響きの違いも楽しんでいただきたいです。

17世紀イタリアの作曲家たちの想像力溢れる作品から、遠く300年以上前のイタリアへ思いを馳せ、彼らの熱い情熱を味わっていただくことができましたら幸いです。

中島—— 7月1日、ラッシュアワーで多くの人が行きかう品川駅構内のカフェでインタビューを終えて、端正な面持ちで非常にクールな方とと思っていましたが、バロックについて語り始めると、情熱的になり、内に秘めたバロック音楽の研究者の顔が現れました。10月3日のコンサートがとても楽しみになりました。

水内 謙一[みずうち・けんいち]
(リコーダー) / 東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。ドイツ・ケルン音楽大学ディプロマ課程リコーダー科を卒業し、演奏家ディプロマを取得。その後同大学国家演奏家資格課程にてリコーダーを専攻。同大学古楽アンサンブル科を卒業。帰国後は国内外で活

発に演奏活動を行うほか、指導にも力を注いでいる。リコーダー講師としてNHKラジオ高校講座「音楽I」に出演。リコーダーを向江昭雅、ドロテア・オーバーリンガー、カリン・ファン・ヘルデンの各氏に師事。室内楽をライナー・ツイッパリング、シェティル・ハウグサンの両氏に師事。

中島—— まずお聞きしたいのは、楽器にリコーダーを選んだのは、何かきっかけがあったのですか。
水内—— 東京芸大楽理科は音楽学を研究するところなのですが、僕はバロックを専門にしたいというのは最初から決めていました。研究するにあたって、学問のための学問ではなく、演奏に役立つ研究をしたいと思ったんです。そこでまずは自分がきちんと楽器を演奏できなければと思い、リコーダーの音色がすごく好きだったこともあり、19歳のときに専門の先生に習い始めました。

リコーダーにはいろいろな種類やサイズがあって、今回のコンサートでは小さくさまざまなリコーダーを4本使います。見た目は小中学校で使うリコーダーと似ていますが、ヨーロッパでリコーダー専門の製作者が特注で作ってくれた楽器で、木製のリコーダーです。木の種類によって音色も違うのですが、今回使う楽器は柔らかい音色の楓です。リコーダー以外にもチェンバロやオルガン、ヴィオラ・ダ・ガンバやバロック・ヴァイオリンなど、様々な楽器が登場しますので、コンサートのときにぜひお近くでご覧いただければと思います。

中島—— 楽器を拝見するのも楽しみです。水内さんがそれほどまでにバロック音楽にのめり込む、その魅力とは。

水内—— バロック音楽がいいと思うのは、人が普通に生きる中で感じるいろいろな感情、喜びや悲しみなどが、非常にわかりやすく表現されているところだと思います。僕にとっては難しい音楽ではなく身近に思える音楽がバロックなんです。王様や貴族のためだったり、教会で演奏するためだったり、誰かのために書いた作品が多いので、作曲家個人の極端な感情という難しさがなく、身近でわかりやすい音楽だと思います。

中島—— この二つのグループでの出会いはいつ頃から、どこで始まったのですか。

水内—— 大学卒業後ケルンに留学していた時期に、フランス人でヴィオラ・ダ・ガンバを専攻するミリアムさんに出会いました。当時まだ19歳だったのにもすごく上手くて、ヨーロッパのレベルの高さに驚きました。彼女とはケルン在学中に仲良くなり、その後ずっと一緒に演奏活動をしてきました。彼女は大の日本好きで、日本語も少し話せるんですよ。ミリアムさんは古楽アンサンブルのレ・タンブルの中心的存在で、彼女を通してレ・タンブルとも一緒に演奏するようになりました。ハルモニア・レニスの村上さんとは東京芸大時代に出会い、留学先も一緒のケルンだったので、学生時代から一緒に演奏活動をしています。

2011年にフランスのリヨン国立音楽院主催の演奏会に招聘されて共演したのが、この5人での初めての演奏会です。お客様からの反響も大きく、とても良い演奏会になったので、ぜひその後も!ということになり、今に至っています。

中島—— 現在も演奏活動はヨーロッパが中心ですか。

水内—— ハルモニア・レニスの村上さんと私は今は日

17世紀イタリアの作曲家たちの想像力溢れる響きと
バロック音楽に使われる多彩な楽器を身近にご覧下さい
聞き手 中島晴美 種の国よはし芸術劇場 PLAT シニアプロデューサー

喜びや悲しみがわかりやすく表現された音楽です。水内謙一

リコーダー

INTERVIEW:4

人形浄瑠璃 文楽

昼の部「生写朝顔話」
夜の部「ひらかな盛衰記」「日高川入相花王」
10月5日[土] 昼の部 13:30 開演 / 夜の部 18:00 開演
会場=PLAT 主ホール

吉田勘彌[よしだ・かんや] / 1955年生まれ。74年5月国立劇場文楽第2期研修生となる。76年4月二代桐竹勘十郎に入門、桐竹勘弥と名のる。同月、朝日座で初舞台。86年11月三代吉田義助門下となり、吉田姓を名のる。99年7月因協会奨励賞受賞、2006年3月第25回(平成17年度)国立劇場文楽賞文楽奨励賞受賞。17年4月第36回(平成28年度)国立劇場文楽賞文楽優秀賞受賞。

INTERVIEW:5



勘彌—— 演目が非常に面白いと思います。『生写朝顔話』は、深雪、後の朝顔が、主人公にあまりにも恋い焦がれて目が潰れてしまうわけです。盲目になって、朝顔の頌歌を歌いながら琴弾く場面とか、見所が多いです。夜の部の『ひらかな盛衰記』。これは時代物の代表的な演目で、松右衛門、実は樋口という、勘十郎さんがやられる役ですが、ほんとに立役の動きがすべて入っている、暴れ倒すという場面です。として『日高川入相花王』はほんとに見ていて楽しい。いろいろ変化があって面白いと思いますね。ぜひ見に来てほしいですね。

中島—— 昼の部と夜の部、通して観られる方も結構いらっしゃるのですか。

勘彌—— 多いですね。5月は東京で『妹背山婦女庭訓』の通狂言でしたが、10時半から始まって、夜の部の終演は9時ですが、通して観るという人も多かったですね。

中島—— 文楽は何を楽しんでいただいたらいいのでしょうか。

勘彌—— 歌舞伎はどちらかと言うとその役者を観に行くというような傾向があると思うのですが、文楽はドラマの中に入りやすく、人形浄瑠璃という世界に浸ることができるのではないのでしょうか。昼の部の『生写朝顔話』は、一目ぼれした男女のすれ違いの物語なのです。

中島—— 『君の名は』みたいなのですか。

勘彌—— とうとう。とうです。寸前で会えなくなったりね。「笑い薬の段」ではチャリ場と言う、滑稽な場面もあります。文楽はそういう笑いという要素がありませんが、祐仙が自分で笑い薬を飲んでしまっただけで笑いが止まらなくなってしまうという場面です。

中島—— 結末は悲劇ですか。

勘彌—— 最後にはハッピーエンドですが、そこまではやらず、大井川で大雨で川止めになって、またそこで会えなくなるという「大井川の段」で申し訳いですね。

中島—— 夜の部の『日高川入相花王』は「パッ」と顔が変わったりして、歌舞伎で見ても文楽で見ても楽しい、ストーリーに近いような究極の恋ですね。

勘彌—— とうです。とうですか、清姫はもうほんとにストーリーですよ。

文楽は竹本義太夫が大阪の道頓堀に竹本座を開いて、興行を始めたとしていますが、そこから320年くらい経っているわけですよ。それだけ永遠と続いてきたその理由は、やはり魅力的な芸能だからこと、これだけ長い時間続いてきたんだと思うのです。

中島—— 見なきゃ損って感じですね。

勘彌—— そう思います。ぜひ見てほしいですね。

中島—— とうです。今回字幕も出ますので、一人でも多くの方に興味を持っていただけたらと思います。どうもありがとうございました。

中島—— 「文楽学び塾」も、馴染みの深い講座になってきましたが、今日ほどのようなことを教えていただけるのでしょうか。

勘彌—— 「人形設え」という、胴に衣装を着付けしていく過程を見ていただけます。主遣いが自分の役の人形を設えるというか、着付けをしていくわけです。それぞれその人よっての癖もあるし、自分が遣い勝手がいいように人形設えするので、微妙に作り方が違うのです。

中島—— 「人形設え」について、特別に自分で工夫した箇所とかはあるのですか。

勘彌—— 人形遣いは師匠から手取り足取りは教えてもらえず、見よう見まねでやるわけです。初日が開く稽古の前の日に人形を設えて、芝居が終わった千秋楽になると人形を潰すと言って、足遣いが元の状態に戻すわけです。長い木綿針に糸を四筋掛けて留めるのですが、入って最初にやる仕事は、師匠の側でこの糸を通して準備をし、はさみを渡したりしながら、どこを留めているのか、どういうふうにするのかなど。解体する時には師匠はどこを留めていたのかを見ながら、自分のやり方を作り上げていくのです。

中島—— 勘彌さんの師匠義助さんは、人形とは思えないような、関節が全部人間になりきっているような感じですが、やはりそう見せるためにも着物の着せ方が大事なのですか。

勘彌—— 首(かしら)と体の動きが素晴らしいですね。人形設えというのはほんとに大事な作業です。

中島—— 勘彌さんは足遣いから今の主遣いまで何年ずつされたのですか。

勘彌—— 僕は足遣いを10年。左遣いは20年以上やっていました。そして、主遣いの修業は並行してやるのです。足遣いの時に子役とか端役の人形を持ちながら始まっていくのです。研修制度がありまして、私はその研修生の2期生です。直接入門する人と、研修生からプロになるという二つのルートがありますが、研修生だと、三味線、人形、全部を経験します。

中島—— 大阪の文楽は少し人気が増えてきているようですが、研修生の応募も増えているのですか。

勘彌—— 公演は、ほぼ毎回大入りが出ています。研修生は残念ながらもう一つですね。途中でやめるということも多く、なかなか芸芸員にまでなる人は少ないです。

中島—— 人形はとても重たいですよ。

勘彌—— とうです。重い人形はほんとに重いですよ。男役の方が圧倒的に重いです。女形でも傾城の人形はもう信じられないくらい重いです。立ち役は突き上げという棒があるのですが、女形はそういう重さを軽減するようなものはなく、片手で長時間持っているわけです。

中島—— 10月には、豊橋で7年ぶりの文楽協会の地方公演となります。豊橋のお客さまに向けて演目の見所を

「文楽学び塾」でお聞きした
文楽の姿と、7年ぶりの文楽協会の地方公演の見所
聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLATシニアアドバイザー

『生写朝顔話』は、一目ぼれした男女のすれ違いの物語です。吉田勘彌

文楽人形遣い

人形浄瑠璃 文楽『生写朝顔話宿屋』『ひらかな盛衰記』



写真：青木信二

高校生と創る演劇『穂の国の『転校生』』(2014)舞台写真



写真：萩原ヤスオ

口字ッ『滅びの国』(2018)舞台写真



写真：池田晶記

穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース『荒れ野』



写真：伊藤華織

『ドクター・ホフマンのサナトリウム〜カフカ第4の長編』



多部未華子

瀬戸康史

音尾琢真

ワークショップ縁日



8/22 [木] 18:30開演・23 [金] 13:00開演
8/24 [土] 13:00開演・25 [日] 13:00開演

8月24日のみ

『お気に召すまま』

シェイクスピア中期を代表する喜劇として世界各国で愛される名作を、熊林弘高の演出、満島ひかり、坂口健太郎らの出演で上演します。●作=W.シェイクスピア●演出=熊林弘高●出演=満島ひかり、坂口健太郎、満島真之介、中村蒼、中嶋朋子ほか●会場=PLAT主ホール●前売予定枚数終了=当日券を含め今後の発売については8月5日以降にお問い合わせください。

9/6 [金] 18:30開演
9/7 [土] 13:00開演 / 18:00開演
9/8 [日] 13:00開演

9月7日13:00のみ

『最貧前線』

●原作=宮崎駿「宮崎駿の雑想ノート」より●脚本=井上桂●演出=一色隆司●出演=内野聖陽、風間俊介、溝端淳平 / ベンガルほか●会場=PLAT主ホール●前売予定枚数終了=当日券については8月30日以降にお問い合わせください。
[特別協賛：サラーグループ] [共同主催：メ〜テレ・メ〜テレ事業]

9/23 [月・祝] 13:00開演

好評発売中

『人形の家 Part2』

●作=ルーカス・ナス●翻訳=常田景子●演出=栗山民也●出演=永作博美、山崎一、那須凜、梅沢昌代●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席6,500円、A席5,000円、B席3,000円ほか

9/28 [土]・29 [日] 14:30開演

9月28日のみ

2019マイセレクト4

PLAT小劇場シリーズ 庭劇回ベニ

『笑顔の砦』RE-CREATION

●作・演出=タニノグロウ●出演=井上和也、FOベレイラ宏一郎、緒方晋、坂井初音、たなべ勝也、野村真人、百元夏繪●会場=PLATアールスペース●料金=[全席指定]一般3,000円ほか

10/3 [木] 19:00開演

好評発売中

レ・タンブル&ハルモニア・レニス

古楽器コンサート

甘美なるイタリア・バロック〜バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディへの道〜●出演=レ・タンブル【川久保洋子(バロック・ヴァイオリン)、ミリアム・リニョル(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、ジュリアン・ヴォルフス(チェンバロ&オルガン)】、ハルモニア・レニス【水内謙一(リコーダー)、村上暁美(チェンバロ&オルガン)】●会場=PLATアールスペース●料金=[全席指定]一般3,000円、ユース(24歳以下)1,500円ほか

10/5 [土] 昼の部 13:30開演 / 夜の部 18:00開演

人形浄瑠璃 文楽

好評発売中

夜の部『ひらかな盛衰記』

●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席4,500円、A席3,000円、昼・夜セット券S席8,000円ほか

託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様 ¥500。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで



マイセレクト4 対象公演

マイセレクト 4 2019



10/6 [日] 16:00開演

劇団四季 ファミリーミュージカル

『カモメに飛ぶことを教えた猫』

猫とカモメのヒナとの温かい交流を描いた、劇団四季新作オリジナルミュージカル。ひん死の母カモメから卵をたくされた猫のソルバが、彼女と交わした3つの約束を果たすため、仲間と力を合わせて奮闘する姿を描きます。●演出=山下純輝●脚本・作詞=劇団四季 企画開発室●作曲=宮崎誠●振付=萩原隆匡●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席一般5,500円(小学生以下3,300円)、A席一般3,300円(小学生以下2,200円)●前売予定枚数終了:当日券については10月以降にお問い合わせください。

11/2 [土] 13:00開演 / 18:00開演

11/3 [日・祝] 13:00開演 / 17:00開演

11/4 [月・振休] 13:00開演

高校生と創る演劇

『転校生』

公募による高校生出演者とスタッフが、劇場やプロのスタッフとともに上演する演劇の第6弾。青年団の平田オリザ作の『転校生』を、豊橋出身の山本タカ(くちびるの会)の演出によりお届けします。●会員先行=8月31日(土)●一般発売=9月14日(土)●作=平田オリザ●演出=山本タカ●出演=オーディションで選ばれた高校生●会場=PLATアールスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般2,000円、高校生以下500円ほか

11/8 [金] 19:00開演・9 [土] 13:00開演

劇団スーパー・エキセントリック・シアター

創立40周年記念・第57回本公演

ミュージカル・アクション・コメディ

『ピースフルタウンへようこそ』

三宅裕司、小倉久寛を中心に結成し、今年で創立40周年を迎える劇団SETがPLATに再び登場します!●脚本=吉高寿男●演出=三宅裕司●出演=三宅裕司、小倉久寛、劇団スーパー・エキセントリック・シアター●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席8,000円、A席6,500円、B席5,000円ほか

11/22 [金] 19:00開演

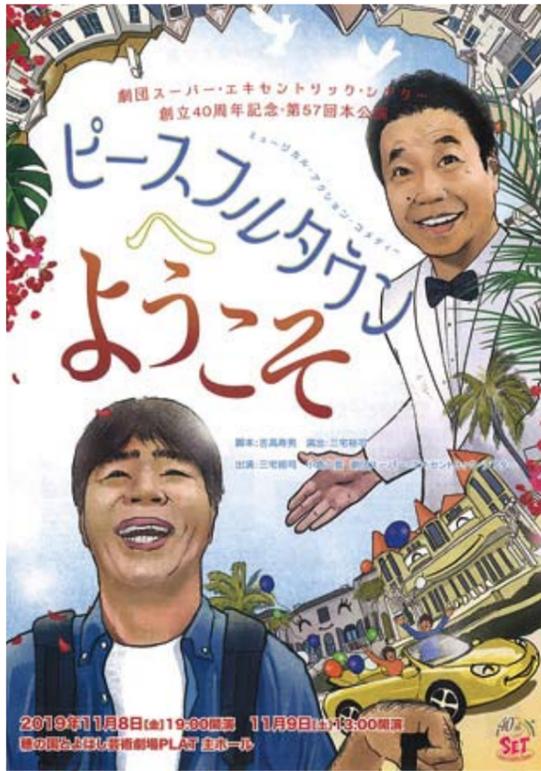
11/23 [土・祝] 13:00開演 / 17:00開演

PLAT小劇場シリーズ

口字ッ10周年前夜祭企画!第十三回本公演

『掬う』

劇団口字ッの1年半ぶりの最新作『掬う(すくう)』。本作は、愛情の見返りを求める家族に疲弊する主人公が、「かつての友人」「父の知り合いと名乗る女子高生」との奇妙な共同生活を経て、他者を救う過程を描く。●会員先行=9月14日(土)●一般発売=9月21日(土)●脚本・演出:山田佳奈●出演=佐津川愛美 / 山下リオ、馬淵英里何 / 日高ボグ美、水野駿太郎、東野純香、大村わたる / 古山憲太郎、中田春介、千葉雅子●会場=PLATアールスペース●料金=[全席指定]一般4,200円ほか



『ピースフルタウンへようこそ』

12/13 [金] 19:00開演
12/14 [土] 13:00開演 / 18:00開演
12/15 [日] 13:00開演

12月14日13:00のみ

PLAT小劇場シリーズ

穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース

『荒れ野』

第5回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞受賞、第70回読売文学賞戯曲・シナリオ賞を受賞した作品をオリジナルキャストで再演いたします。豊橋公演とともに、東京・下北沢「ザ・ズズナリ」でも上演いたします。●会員先行=9月7日(土)●一般発売=9月21日(土)●作・演出=桑原裕子●出演=平田満、井上加奈子 / 増子優文江、中尾諭介、多田香織、小林勝也●会場=PLATアールスペース●料金=[全席指定]一般4,000円ほか

12/20 [金] 18:30開演
12/21 [土] 13:00開演 / 18:30開演
12/22 [日] 13:00開演

12月21日13:00のみ

『ドクター・ホフマンのサナトリウム

〜カフカ第4の長編〜』

カフカ第4の長編小説が発見された?!敬愛する作家・カフカ幻の長編にアウトサイダーにしてトップランナーという、特異なポジションで日本演劇界を席巻し続けるケラリーノ・サンドロヴィッチ(KERA)が、挑みます。●会員先行=9月21日(土)●一般発売=10月5日(土)●作・演出:ケラリーノ・サンドロヴィッチ●出演=多部未華子、瀬戸康史、音尾琢真ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席9,000円、A席7,000円、B席5,000円ほか※発売日初日は、お一人様一申込につき1公演のみ4枚までの枚数制限有り。
[共同主催:メ〜テレ・メ〜テレ事業]

2020/1/13 [月・祝] 13:00開演

二兎社43

『私たちは何も知らない』

永井愛作・演出による新作公演。明治44年、20代の女性5人が集まって雑誌「青鞥」を創刊した。雑誌作りという冒険を通して味わう高揚感や苦悩を描く青春群像劇。●会員先行=10月12日(土)●一般発売=10月26日(土)●作・演出:永井愛●出演=朝倉あき、藤野涼子、大西礼芳、夏子、富山えり子、須藤蓮、枝元萌●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席5,500円、A席4,500円、B席3,000円ほか

2020/1/26 [日] 16:00開演

「新日本フィルハーモニー交響楽団

ニューイヤーコンサート」

指揮に三ツ橋敬子を、ソリストに正戸里佳(ヴァイオリン)を迎えての、新日本フィルハーモニー交響楽団によるニューイヤーコンサートです。●会員先行=9月14日(土)●一般発売=9月28日(土)●指揮=三ツ橋敬子●ヴァイオリン=正戸里佳●演奏=新日本フィルハーモニー交響楽団●会場=ライブポートとよはし コンサートホール●料金=[全席指定]S席4,500円、A席3,000円ほか

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。

●料金=U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額 / 高校生以下:一律1,000円

●購入方法=各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。

●その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

若手音楽家育成事業

プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。●会場=PLATアールスペース●料金=[全席自由・整理番号付]500円

11/29 [金] 14:00開演

白井那奈[ピアノ]・高柳満理奈[ピアノ]●会員・一般同時発売=8月12日(月・休)

2020/1/5 [日] 14:00開演

Trio Esters[トリオ・エステル]満吉香苗(フルート)、岡田薫子(フルート)、鈴木風香(フルート)●会員・一般同時発売=11月29日(金)

2020/3/19 [木] 14:00開演

Lis[リス]波多野千夏(ソプラノ)、寛悠里(ヴァイオリン)、植田結衣(ピアノ)●会員・一般同時発売=11月29日(金)

ワークショップ・レクチャー

ワークショップ縁日

8/31 [土] 15:00開演

9/1 [日] 11:00開演 / 15:00開演

『ロビーコンサート』

お子様から大人までどなたでもお聴きいただけます。●出演=中村真帆(ヴァイオリン)、大塚沙希(ピアノ)●会場=PLAT交流スクエア●料金=無料(予約不要)

9/1 [日] 12:30 ~ 15:00

『げきしょうであとぼう』

演劇づくり、カラダや音楽を使ったゲーム、プラットだからできたこの縁日。夏休み最後の日曜日は劇場まるごとつかって遊んじゃおう!●会場=PLAT創造活動室Aほか●対象=小学生以上●参加費=無料(申込不要)

古典遊学

9/4 [水] 16:00 ~ 17:30

特別企画<シェイクスピア音楽のお話と演奏>

●演奏=永田平八(リュート)、水内謙一(リコーダー)

9/4 [水] 18:30 ~ 20:00

シェイクスピア講座『ウィルを待ちながら』—リア王—

●講師=河合祥一郎

[共通事項]●会場=PLATアールスペース●参加費=1,000円(特別企画のみの方は500円)●募集人数=100名(先着順)●申込方法=①申込書に必要事項を記入の上、窓口持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

木藤歩 照明ワークショップ

『光の触り方研究室(中級編)想像・変換・連想ゲーム』

10/22 [火・祝] 13:00 ~ 16:00

普段つなげて考えない感覚を、ちょっと刺激して連想することで、舞台照明のデザインの考え方を実践してみるワークショップです。●講師=木藤歩(照明家)●会場=PLAT主ホール●対象=高校生以上、舞台芸術・照明に興味のある方。●参加費=一般1,000円、高校生以下500円●募集人数=16名(先着順)●申し込み方法=①申込書に必要事項を記入の上、窓口持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

このところ梅雨まっただなかで、じめじめしとし、訪れていた夏の気配が消えちゃった感じがしますが、皆さん安心して下さい。必ず夏は来ますからね。劇場が決まれば必ず本番も来る…というわけで先月、私が主宰を務める劇団KAKUTAの公演も、「ついに来ちゃった」という感じで本番を迎えました。どうして「ついに来ちゃった」なのかというと、それまでKAKUTAはこの二年半ほど、休団という形を取っていたからです。

休団とはその名の通り、劇団活動を休止すること。言い換えれば充電期間。いきものがかり風に言うと「放牧」。「え？去年豊橋で『ねこはしる』って舞台、やってなかった？」はい。実際には昨年から少しずつ活動を再開していたのですが、『ねこはしる』はKAKUTAの拠点である東京では上演しておらず、豊橋をはじめ地方の劇場のみ。私が作・演出をする「本公演」とも違いました。だから6月に東京の本多劇場で上演した『らぶゆ』という作品が、本格的な劇団リスタート公演だったのです。

幕が開くと、たくさんのお客さんが「おかえりなさい」と声をかけてくれました。待っていてくれた方たちがいたんだという実感に喜びと感謝が溢れ、同時に少し、不思議な気分にもなりました。去年からなんだかんだ私たちは動いていたけれど、東京でKAKUTAはやはり二年半、姿を消していたのだと気づいたからです。

その一方、公演のパンフレットで「休団中、解散も考えた」と書いたらお客さんに驚かれました。公演ペースは劇団によって様々。年に三、四回上演するアクティブな劇団もあれば、二、三年に一度、ゆっくりペースで進む劇団もあります。だから私たちがあえて「休団」と言わないでいたら、お客さんは「久々のKAKUTAだなあ」くらいの感覚だったでしょうし、そうして予告も挨拶もなしにいつのまにか活動をやめ、自然消滅してしまう劇団というのも、じつは結構、あるのです。

いつはじめても、いつ終わってもいい。組織でありながら学校や会社とは違う、その自由さが劇団の魅力であり、儚き脆さで

「キャラメル」の味

芸術文化アドバイザー
桑原裕子

もあります。その根底には「誰に頼まれて始めたわけじゃないんだし」という考えがあります。面白くなったら辞めちゃっていいという、ある意味とても無責任な存在の仕方が許されるのです。逆にいうと、どの公演もこれが最後くらいの気概でやらないと面白くならないのが、劇団でもあります。

「劇団というのは続くこと自体が奇跡だ」むかし誰かに言われましたが、まさしくそういうことなのでしょう。けれど、そんな基本概念を持っている我々演劇人でさえ少なからずショックだったのが、劇団キャラメルボックスの活動休止でした。私が思うキャラメルボックスとは、演劇界における「給食の牛乳」みたいな存在です。子どもが学校という社会に出て、最初に飲むのは給食の牛乳ですよね？演劇も、中学や高校で初めて感激したのがキャラメルボックスだったという人は多いと思います。

当然、好き嫌いはあります。いきなりファンタを欲しがるともいるし、大人になればコーヒーやもっと複雑な酒の味も覚えます。ずっと牛乳が好きになる人も、もちろん。ですが、どれほど好みが分かれても、私たちにとって「給食には牛乳」は永遠の定番。つまりキャラメルボックスは、誕生と消滅の移り変わり激しい小劇場に於いて異例の、いつも、ずっと、当たり前のようにあるもの、でした。

ここまで書いて思いましたが、わざわざ牛乳に例えずとも、そのままズバリ、昔ながらの定番お菓子「キャラメル」と言えば充分でしたね…。

休止の報せは演劇界に留まらず大きな話題になりました。「諸事情により」という部分を、色々な人が推理していました。でも、自分が休止した身だからこそわかるのですが、真の理由など当事者以外にわかるはずはないのです。それよりも、あえて「休止」とし、解散ではないと発表されていることに希望を託して、恋しいな、と思うだけでいいのだと思います。なんなら、乱暴な言い方ですが、忘れちゃったって良いと思うんです。動きを止めるってそういうことです。劇団側だってきつとそのくらいの覚悟をしてるはずです。

そうして放牧や充電の時間を過ごし、再び始動という報せが来たとき、「ついに来ちゃった」と幕が開くとき。私たちは思い出すはず。何も忘れてなかったことを。その甘くて懐かしいキャラメルの味を。それでごく自然に、「おかえりなさい」と言うんだろうと、思います。

LOITER
バラコ
の
寄り道
ぶらぶら

SUPPORT

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

YOSHINO ASSOCIATES
architect engineers
吉野設計研究所
http://www.440a.co.jp

有限会社 魚伊
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 〒440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 〒443-0007 Tel.053-422-3628(代)

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋市西産婦人科) 電話 52-5256

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

うつ、統合失調症、精神遅滞、発達障害、脳梗塞、人工透析、人工関節など
豊橋・豊川障害年金相談センター
初回相談無料 ☎0120-891-498
豊橋市花中町 160-9 障害年金専門社会保険労務士 竹下英司

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

ONOCOM なければつくる
株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 数きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶席菓子専門店
若松園
御菓子司

西村能舞台
豊橋市上伝馬町
代表=西村能三
Mail=nnbutai@gmail.com

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心・安全な地下駐車場
パ・ガ500
ソウの親子の
看板の目印
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は
30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌 院長 塩之谷 香 副院長 市川義明
豊橋市植田町聞取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 傘あくわ

井上皮膚科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本 豊川堂
本店・カルミア店・アビタ向山店・プリオ豊川店
セントファール田原店・ささしまグロ・バルゲート店

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

生活にフィインクオリティ
sala

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ
プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く10:00~19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

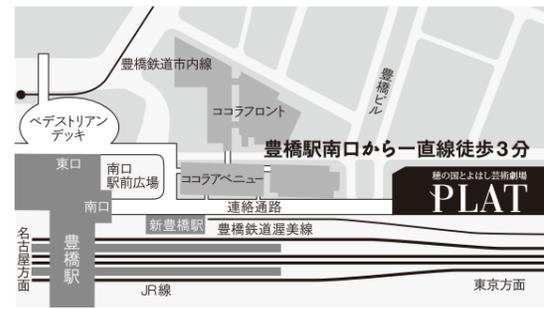


プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料

特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
料金
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円
購入方法
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00~22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT